

既存インフラを活用して水素混合LPガスを供給するのは、全国初の試みとなる。

事業概要説明資料によると、水素混合比率は上限10%に設定しており、年間およそ65kg(725m)程度となる見込みである。また水素は福島水素エネルギー研究フィールド(FH2R)で製造された再生エネ由来水素の活用も検討しているという。

実施体制は、岩谷産業が「水素・LPガス混合設備の製作・設備運営の最適化」「水素混合率増加に向けたガス機

## 4月1日出荷分より、産業・医療ガスを10〜30%以上値上げ エア・ウォーター

エア・ウォーター(豊田喜久夫会長)は、4月1日出荷分より、各種産業・医療ガスを値上げする。

価格改定の対象ガスは、エアセパレートガス(酸素、窒素、アルゴン、エルナックス)、炭酸ガス、ドライアイス、ヘリウムガス、レアガス、水素ガス、ダイサイドなど。改定幅はエアセパレートガスが現行価格に対して10%以上、その他のガスは同20〜30%以上。同社では、製造・輸送コス

器等の改良検討」「ガスメーター器差評価」等を担い、相馬ガスは「水素混合LPガス事業の運営・管理」「ガス機器・接続具等の安全性検証」、相馬ガスホールディングスは「事業拡大、採算性向上案の作成」等をそれぞれ担当する。ガス供給は25年1月までの開始を予定しており、助成事業期間は26年3月までとなっている。岩谷産業では同事業による供給実績や知見を通じて、水素混合LP事業の他の国内エリアへの拡大に向けても検討していく考えを示している。

トの上昇を理由に23年2月より10〜30%以上のガス価格の改定を進めてきたが、エネルギーコストや電気料金が不安定な状況が続いているのに加え、24年4月から改正される労働基準法改正に伴う輸送コストの上昇、また炭酸ガスやヘリウムガスにおいては、海外を含めたガス調達先の複数化が必要となっている。こうしたコスト上昇は自助努力をはるかに超えており、今回の価格改定に至った。

## 待望のピュリファイヤー(ガス精製器)の販売開始 バリューインパクト

韓国のTKFやDK・LOKなどのバルブ、継手、フィルター類を販売し、プライベートブランド「PresVac(プレスバック)」を展開するバリューインパクト(横浜市中区、榎本和則社長)は、このほどピュリファイヤー(ガス精製器)の販売を開始した。

ピュリファイヤーとは、半導体製造工程やガス配管の自動溶接等で使用される高純度ガスの水分やO<sub>2</sub>、H<sub>2</sub>、CO、CO<sub>2</sub>などの不純物を取り除くもので、国内では大手精製器メーカーの長納期化の影響で品薄状態が続いていた。

今回取り扱うピュリファイヤーは、韓国のHIPURITY(ハイピュアリティ)社製。米・大手精製器メーカーからスピンアウトし2004年に創業した20年目の会社



ピュリファイヤー(ガス精製器) [IGPシリーズ]

**HIPURITY**  
In-Line Purifier  
**IGP Series**  
ピュリファイヤー(ガス精製器)

・流量、不純物成分に応じたカスタマイズが可能  
・短納期

**value impact** バリューインパクト株式会社  
〒231-0023 神奈川県横浜市中区山下町 24-8 Tel 045-212-2731 Fax 045-212-2736  
本社 / 横浜技術センター / 仙台営業所 / 台湾支店

で、韓国の大手半導体メーカー等への実績も多数ある。従来、日本に販売窓口はなく、バリューインパクトが初めて取り扱う。榎本社長は「国内ではピュリファイヤーを入手しづらい環境が続いたため、国内外で新たなメーカーの調査依頼が絶えなかった。精製能力が落ちると再活性化も可能で、アフターフォローは当社が責任持つて対応する

体制を組んだ。国内では半導体投資が続くので、末永く安心して使っていただける体制を築いていきたい」とする。同社のポリシー「安定供給と価格のメリット」も提供できそうとする。

なお、同社はセミコンジャンパンに参考出品して反響の高かった半導体ガス配管用のチューブカッターについても販売・メンテナンス体制の構築を進めており、3月中に販売開始する予定。榎本社長は「半導体関連商材で不足しがちなものをいち早く見つけ、代替品を市場に供給し、選択肢を増やしていきたい」と語る。